



## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 185号 2010.10.28 発行 社会政策研究所

### 差別禁止部会での議論開始へ—障がい者改革会議

キャリアブレイン 2010年10月27日

内閣府は10月27日、「障がい者制度改革推進会議」の第22回会合を開き、同会議の下に設置が決まっていた差別禁止部会の構成員案が承認された。同部会は11月から議論を始める予定だ。

この日了承された構成員は以下の通り。

棟井快行・阪大教授 浅倉むつ子・早大教授  
山本敬三・京大教授 山崎公士・神奈川大教授  
松井亮輔・法大名誉教授 川島聡・東大大学院  
特任研究員 大谷恭子弁護士 池原毅和弁護士  
野沢和弘・毎日新聞論説委員 竹下義樹・日本  
盲人会連合副会長 川内美彦・東洋大教授 伊東  
弘泰・日本アビリティーズ協会会長 太田修平・  
日本障害フォーラム「障害者の差別禁止等権利法  
制に関する小委員会」委員長 小島茂・連合総合  
政策局長 西村正樹・連合特別委員。

オブザーバーは、遠藤和夫・経団連労働政策  
本部主幹 佐藤健志・日本商工会議所産業政策第  
二部担当部長。

同部会での議論のベースとなる資料を作成する専門協力委員は、永野仁美・上智大法  
学部准教授 引馬和子・田園調布学園大准教授 相澤美智子・一橋大専任講師。



政府の行政刷新会議は事業仕分け第3弾の前半戦で介護関連  
事業2件を取り上げた(10月27日、都内)

### 介護関連特会2件、「廃止」と「見直し」に—仕分け第3弾

キャリアブレイン 2010年10月27日

政府の行政刷新会議は10月27日、介護関連の特別会計(特会)予算として仕分けの対象となった「財団法人介護労働安定センター」の交付金と「介護雇用管理改善等対策費」をそれぞれ、「廃止」と「事業の見直し」と結論付けた。

#### ■センター運営に「交付金必要なし」

介護労働安定センターは、介護職員基礎研修や介護職員の雇用管理相談などを主に行い、来年度に20億7100万円の交付金を概算要求している。所管する厚生労働省の担当者からは、利用者から一定の需要があり、経費削減に努めていることなどが説明されたが、仕分け人らは「独立採算で運営するのはいいが、交付金で運営するのは廃止」と結論付けた。その理由として、仕分け人らは「介護分野にだけ公費が必要な理由が不明瞭」(枝野幸男・民主党幹事長代理)などと述べた。

#### ■「介護報酬見直しで対応すべき」

「介護雇用管理改善等対策費」事業は、介護職員の雇用管理改善や人材確保を目指す事業主に支給する助成金で、来年度は106億8400万円を概算要求している。厚生省は介護業

界の慢性的な人材不足など事業の必要性を訴えたが、昨年度予算（135億5700万円）の執行率が32.8%と低調なことに加え、介護職員が安心して働ける職場環境の重要性などを中心に議論。その結果、仕分け人らは類似制度との整理統合ができるとして、「事業の見直し」と結論付けた。

## 障害者アート商品化を 知事、定例会見で期待



中日新聞 2010年10月27日

アウトサイダー・アーティストの作品を手に障害者の作品について可能性を語る嘉田知事＝県庁で

パリ市で開かれている障害者の内面からわき出る表現力に光を当てた美術展「アール・ブリュット・ジャポネ展」が評価され、市から勲章が贈られた嘉田知事は26日の定例会見で「手ぬぐいやTシャツなどデザイン的に優れている障害者のものに価値付けをする活動にしていきたい」と語り、障害者アートの商品化に期待を寄せた。

アール・ブリュットは1970年代に確立され、仏語で「生の芸術」という意味。正式な美術教育を受けていない人の芸術「アウトサイダー・アート」

とも言われ、ほとぼしる表現力から日本でも障害者が絵画や彫刻、工芸などの分野で活躍している。

勲章は、彼らの活動を支援する県社会事業団が主催するアール・ブリュット・ジャポネ展が好評を得たため知事に贈られた。

知事は、愛用している沖縄県出身のアーティストの喜舎場盛也さんが作った漢字が並んだ手ぬぐいを披露し「本当に力がある作品」と語り、「次のビジネスにつなげていただきたい」と自身の思いを述べた。（木原育子）

## 口内センサーで高齢者の安否確認 県工技センター

神戸新聞 2010年10月27日

高齢者の歯などに超小型センサーを取り付けて口の動きを解析することで、その人の状態を遠隔確認できるシステム「発話センサー」を、兵庫県立工業技術センター（神戸市須磨区）の研究員が開発した。1人暮らしの高齢者の安否確認などに活用する計画。現在は試作段階だが、実用化に向けて2011年度中にプロトタイプ（原型）を完成させる。

主任研究員の才木常正さん（40）と瀧澤由佳子さん（40）。通信技術などを活用してお年寄りが会話をしていることが分かれば、安否確認の自動化が可能になると考えた。

動きを感知する「加速度センサー」に着目。歯科矯正用のマウスピースに小型センサーを取り付け、研究員が実際に口にはめて実験を重ねた。

口を動かすとセンサーはあごの上下左右、前後の動きに加え発声などによる骨振動もとらえる。これらを周波数解析すると、会話をしているのか、歩いているのか、睡眠中かなど、装着者の状態が把握できるという。

試作品のセンサーにはデータ送信用の線がつき、大きさも厚さ1・5ミリ、縦5ミリ、横10ミリあるが、県立大学大学院の研究チームと連携して無線化と小型化を進める。高齢者の義歯に埋め込み、自治体の福祉担当者らにデータを送って安否確認する仕組みを想定している。

「個人のプライバシーを守りながら、高齢者の安否確認や病気予防など、安全と健康をサポートするシステムに育てたい」と才木さん。県内の中小企業と組んで、商品化することを目指している。

同センターは11月17日午後1時から、研究成果発表会を開く。発話センサーのほか、保湿度の高い高機能化粧品、摩耗に強いめっき技術など、23の研究成果を講演やポスター展示で報告する。参加無料。午後5時45分からは発表者との交流会（参加費1000円）。同センターTEL078・731・4163

大阪府からのお知らせです。2010年10月27日

11月は、「こころの再生」府民運動の推進月間です。

「こころの再生」府民運動とは、

「ほめる・笑う・しかる」をあい言葉に、大人も子どもも今一度、「生命を大切にする」、「思いやる」、「感謝する」、「努力する」、「ルールやマナーを守る」など、忘れてはならない大切なことを見つめ直し、毎日の暮らしの中で、一人ひとりができることからはじめてみることを呼びかけています。

7つのアクション

- 「あかんもんはあかん」と、はっきりしかろう
- 「ええもんはええ」と、はっきりほめよう
- 「ユーモア」を大切にしよう
- 「あいさつ」をもっと大切にしよう
- 「おかげさんで」を大切にしよう
- 子どもの話をじっくり聞こう
- 地域にどんどん出て行こう

11月は児童虐待防止推進月間です。

まわりの子どもに関心をもってください

～児童虐待防止・オレンジリボンキャンペーン～

—11月は児童虐待防止推進月間です—

### ① オレンジリボンキャンペーンとは



今、子どもへの虐待の問題が深刻になっています。「子どもたちが健やかに育つように」という願いのもと、一人でも多くの方に「児童虐待防止」に関心をもってもらい、何ができるかを考え、また、行動をおこしてもらおうという活動が「オレンジリボンキャンペーン」です。

大阪府では11月の児童虐待防止月間を中心に、行政と民間が協働して、府内全域に広く普及させていきます。ガンバ大阪の試合会場での広報イベントや啓発グッズの配布のほか、さらに広く浸透させるため、様々なキャンペーンイベントを展開していきます。

また企業の協力を得て、啓発物の配布やキャラクター人形がオレンジリボンのたすきをかけてPRするなど、効果的で身近な啓発を続けています。それぞれのできることからオレンジリボンを広めていきましょう！

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにはブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行